

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	エンゼルホーム北野 1F	評価実施年月日	平成20年12月20日
評価実施構成員氏名	○管理者 荒木聡夫 ○1Fユニット ユニットリーダー 赤石信子 介護従業者 早坂亜矢子 ・ 須藤道子 ・ 佐々木裕美 ・ 宍戸真奈美 ・ 花木弘美		
記録者氏名	赤石 信子	記録年月日	平成20年12月26日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>			
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者を含む職員全員が理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組む努力をしている。</p>	○	<p>職員個人のネームプレートの裏に運営理念を印刷し、理念の共有と実践の喚起を図っていきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>広報・文章などで、家族の方々又は内覧・相談会を開き地域の回覧板に掲示し地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>行事・日常生活など広報誌などで知らせて理解していただく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>職員全員が、隣近所の人と気軽に声を掛け合ったり気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>近隣を散歩し、日常的な付き合いが出来るよう、入居者さん・職員が積極的に挨拶出来るように努めていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会・老人会等には参加出来ていないが、地域で行われるお祭りに参加し、地元の人達との交流を深められるように努めている。</p>	○	<p>近隣住民との信頼関係を築く為に積極的に地域活動に参加し、ホームの存在をアピールしていくと共に、将来的には近隣の小学校とも交流できるように働きかけていく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホームの内覧・相談会を開き地域の高齢者の方々、又はご家族の方に見学して頂き、お話を聞かせて頂いている。</p>		<p>ホームの行事開催とともに見学会を開いていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組むため、改善計画表の作成・会議を通し話し合いを持ちそれにむけて日々取り組んでいる。</p>	○	評価を活かして具体的な改善に取り組み、改善を図っていききたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		2ヶ月に1度、当ホームにて開催しており地域包括・地元自治体・ご家族等と話し合いを持ち、そこでの話し合いを元にサービスの向上に努めている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		積極的に担当者とコミュニケーションを取り、サービスの質の向上に努めている。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	研修会などで持ち帰ったものを職員全員で共有し、事例などを会議の中でグループワークなどで話し合っている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		入居時はもとより、疑問点が出た時点で代表・管理者より説明し理解・納得を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見・不満・苦情を管理者や職員並びに、外部者へ表せる機会を設けている。	○	玄関に苦情箱・苦情申立先を明示したパネル、印刷物を置いている。また、苦情箱に寄せられた投書は、他を経由せず、直接経営者の目に入る体制をつくっている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	事業所での利用者の暮らしぶりや、健康状態・金銭管理・職員の異動などについて、家族等に定期的及びここに合わせた報告をしている。	○	月1度、1ヶ月間の日誌を送付するなど、書面による状況報告をすると共に面会の際にも綿密な報告・連絡・相談を行っている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族などの意見・不満・苦情などを管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設けている。		玄関に苦情箱・苦情申立先を明示したパネル、印刷物を置いている。また、苦情箱に寄せられた投書は、他を経由せず、直接経営者の目に入る体制をつくっている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者・管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	○	機会を設ける以前に、職員が日常会話の中でも運営に関しての意見交換が出来る雰囲気を保つ事にも努力している。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんのケアにそえるよう、勤務時間を考え、その都度柔軟にローテーションを組んでいる。管理者を通常のシフトに入れず、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じることができている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さん・ご家族の方々への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要だと思うので、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにして、研修発表も行い、全職員が内容を閲覧できるようにしている。</p>		<p>研修などの案内が来た際は運営者が管理者と相談し、それに即した職員を参加させている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域の同業者、他地域の同業者などと交流する機会を持っている。</p>	○	<p>外部との交流を積極的に持つことは職員にとっても自身を見つめなおす重要な機会ととらえ、積極的な参加を奨励している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>よく話を聞くように心掛けている。休みを確実にとり、連休等にも考慮し、リフレッシュしてもらえるよう配慮している。</p>		<p>運営者・管理者・各リーダーは職員が一人で悩むことのないように常にコミュニケーションを取り、情報を共有している。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>現場で起きている状況や変化を知るため現場におり、利用者さんと過ごしたり、職員とのコミュニケーションをとっている。各自が向上心を持って働けるよう、資格取得に向けた支援を行い取得後は本人の意思を重視しながら職場内で活かせる環境づくりに努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前面談や入居後において綿密に本人と話し、ご本人の求めていることや不安を理解できるよう工夫している。必ずご本人にお会いして心身の状態やご本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるよう関係づくりに努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合い、これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況など経緯をゆっくり聞き、次の段階の相談につなげている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の方はすでに沢山のサービスを利用されている方が多く、早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行ない、スムーズに入居できるよう努めている。		住診・訪問看護・訪問歯科・訪問利用などの外部サービスも導入している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず事前に見学してもらうことから始め、よく説明・話し合いをし安定した利用に移行している。止むを得ずすぐに利用することとなった場合は、ご家族や関係者に来ていただくなどして、安心感を持てるようにしている。		入居者本人の生活ペースを乱すことなく徐々にホームでの生活に馴染めるよう契約前の段階で本人の状況や家族の思いなどの情報収集とホームでの対応の方針を示した上での相談を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている。	本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過しながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている。	○	一緒に過しながら、喜怒哀楽を共にし本人から学んだり支えあう関係を築けることがグループホームの利点であると考え入居者・職員共に笑顔を共有できるホームを目指している。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や、思いなどを細かく伝え、ご本人を支えていくための協力関係を築いている。日々の暮らしの出来事や気付いたことなどの情報の共有に努め、家族と同じような思いで支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう家族にも理解していただけるように話し合いを持ち、支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う入居者さんを把握し、散歩や外出、食事の席等を含め、より良い関係づくりができるよう努めている。また、同じ作業などを一緒にする機会なども多くし協力・係り合いがうまく取れるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院されたり退去しサービス利用が終了しても、ご家族の方の不安が少しでも軽減できるよう、立ち寄りいただき、お話を聞いたり相談にのったり、元気づけたりしている。また、職員個人的にも面会する機会を家族と話し合い了承を得た上でおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通して入居者の思いや希望を確認し場合によってカンファレンスを開き、その人らしい生活が送れるよう努めている。また、困難な場合には、ご家族も交えて話し合い、その人らしい生活ができるよう努めている。		常に本人の思い・気持ちを尊重したかわりを心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービス利用の経過等の現状を総合的に把握するよう努めている。		センター方式・日誌・アセスメント・ケアプランを有効に利用し、総合的把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	一人一人の1日の過ごし方・心身状態・有する力などの現状を総合的に把握するよう努めている。		定期的なケアカンファレンスの開催、日々の申し送りなどで職員間の情報共有を図っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、課題とケアのあり方を明確にし、ご家族・本人と話し合い、介護計画を作成している。		意見やアイデアを引き出すために現在の状況を詳細にかつ確実に伝えることにも重点を置いた話し合いを実践している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて見直しを行うことはもちろん、状況の変化に対しては仮のプランを考えたり、ご家族の方と話し合いを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフだけではなく、ご家族が見ても日々の様子・ケア内容や変化等、すぐにわかるよう細かく記録に残し、日々の介護計画の見直しに活かしている。		個別記録(日誌)はご家族にも郵送している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしをつづけられるよう、警察や民生委員、地区町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。また、裏の幼稚園から訪問してもらい、交流につとめている。	○	今後もっと多くの地域住民の方々と交流・相互支援できるよう努めていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望や体調の状況に応じて、訪問理美容サービスや出張美容、また札幌市のオムツサービスを利用してもらっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化され、色々な情報を受けたりご指導願っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		2週に1回かかりつけ医の訪問(往診)と随時の病院送迎・付添いなどのサービスも実施している。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		利用者だけでなく家族へのフォローも行っている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	医療の情報に関しては、かかりつけ医と情報を共有した上で今後予想される体調の変化や対処方法などを常に話し合いをしている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	今後さらに重度化や終末期に向けて職員の対応・知識などを深め、チームとしての支援ができるよう努力していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。</p>		<p>利用者本人に関わる情報交換は積極的に行っている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者の誇りやプライバシーを傷つけない様言葉かけや対応に充分注意し、記録等の個人情報は所定の場所に保管している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者にあわせた声掛けを行い、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、しぐさで意思を確認している</p>		<p>常に利用者の思いを重視したケアを実践している。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>散歩・買物等の希望があった場合、その日に行える様に努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人、家族の希望に合わせ近隣の美容室へ出かけたり 訪問理美容を利用している。本人の好みで整えられるよう支援し、不十分なところや乱れはさげなく直している</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>日々入居者の嗜好に気を配り、好きなものを取り入れたり、盛り付け、配膳、下膳、下ごしらえなどを手伝っていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	主治医、ご本人、ご家族と相談し、健康状態を考慮しながら進めています。スタッフが行事、季節感を取り入れ、その時に合わせ、本人の好むものをすすめている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンをチェックし、トイレへの声掛けや入居者の動き判断し、支援している。声掛けのトーンを工夫したり、さりげない声掛け、扉を閉める等配慮している。人により、陰部清拭等を毎日行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	あらかじめ設定した入浴日以外に一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		季節感を出すために入浴剤などをうまく取り入れ気持ちよく入浴できるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の日中の生活活動を通して、個々のリズムを整え安眠、休息できるように努め支援している。寝付けなない時には、一緒におしゃべりし飲み物などをすすめる等配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事作りの下ごしらえ、皿への盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみなど経験を生かし行っていただいておりますすべての面で支援している。必ず「ありがとう」の感謝の言葉を伝えている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援しているが、人によってはホーム側で管理を行っている。		希望時または月に2度程度、近くの商店・デパートなどに買い物外出支援を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など一人一人のその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事をたて、それに沿ったバスレクなどをおこなっている。また、遠くの場所への外出については(温泉、お墓参りなど)、家族の協力も得ながら行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者一人ひとりが有する力量に応じていつでも手紙や電話をする事が出来るように支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間のしぼりはあるが、なるべく仕事帰りやご家族の都合のいい時間にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮・対応をしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法律の問題以前に人としてやってはいけない行為なので行ってない。また、研修にも参加し職員間の共有をしっかりとっている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯・危機管理上の問題により、夜間のみ玄関・階段扉の施錠は行っているが、それ以外は開錠している。利用者が一人で外出しそうな時は、声かけをし安全面に配慮し自由な暮らしを支えるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーと安全については、支援を行う上での大前提の問題とし、利用者の所在や様子を常に把握している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に応じて予想される事故の防止策をシュミレートした上でケアを実践している。	○	ヒヤリ・ハット集を導入し事故防止に取り組んできた。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会での実施について習得するようにしている。又、夜間時の緊急時対応については、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。普通救命講習をホーム内で行ってもらい、ほぼ全員が終了している。		ケアカンファレンスでこの問題を取り上げている。また、緊急時マニュアルは常備している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の避難場所・ルートの確認を行い、シュミレートしている。また、地域の方々の協力を得られるよう働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについては、入居前から家族などに説明し理解を得ている。また、常にリスク回避の為の対策を話し合っている。		特に医療面に関しては、ご家族との情報交換を積極的に行っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	些細な体調変化・異変などを見逃すことのないよう、職員同士での情報共有を活発におこなっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルの作成をしている。その方のレベルに応じて支援している。症状の変化についても医療機関との情報交換を積極的に行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	医療面からのアドバイスや生活環境面の見直しなどから、便秘の原因や及ぼす影響を理解し予防策を検討し実践している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の口腔状態を把握した支援ができるよう訪問歯科を導入した上で日々の支援を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	状況や力、習慣に応じた支援を行っていくため職員が献立を考え栄養バランス・必要摂取分の確保に努めている。また水分量は毎日チェック表を用いるなどの工夫を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り、早期発見、早期対応に努めている。又、入居者及び家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種も受けている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾等は、毎日漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も点検・掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	毎日の玄関周りの掃除を入居者共に行っている。また、冬季間は除雪も一緒に行っている。玄関内にあった食材等の箱を撤去し季節に合った飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員・入居者が共有部分の音や光の調節を行い入居者が不快な思いをしないように努め、居心地のよい生活空間を目指した工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで時々に合わせて一人で過ごされたり、仲の良い者同士でくつろがれている。お天気の良い日は前庭で心地よい日差しを浴びて過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	筆筒や鏡台・仏壇にいたるまで、馴染みのある家具や生活用品を持ち込んでいたっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	職員がこまめに換気・温度・湿度などの確認・調整を行い入居者が不快な思いをしないように努め居心地のよい生活空間を目指している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の身体機能を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		残存機能の維持・低下予防の為のケアを実践している。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の各部屋に表札やトイレなどに目印を設けるなど混乱を防ぎ自立して暮らせるように工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にはベンチ・テーブルを置き、利用者が楽しんで頂ける場所づくりを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)